

議事録

件名	令和6年度湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会
日時	令和7年2月14日(金) 18:30~20:30
場所	湖南省役所西庁舎3階 大会議室
出席者	<p>【事務局】 湖南省教育委員会学校教育課</p> <p>【委員】 出席9名 出席表 欠席2名：丸井孝一委員 芝原秀治委員</p>
資料	<p>資料 令和6年度湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会次第 委員一覧 【資料1】 湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会設置条例 【資料2】 湖南省部活動地域展開 【資料3】 湖南省部活動地域展開推進計画(案) 【資料4】 令和6年度湖南省地域文化スポーツクラブ体制整備事業について 【資料5】</p>
議題項目	<p>(1) 湖南省部活動地域展開の現状と方向性について 【資料3】 (2) 湖南省部活動地域展開推進計画(案)について 【資料4】 (3) 令和7年度湖南省地域文化スポーツクラブ体制整備事業について 【資料5】 (4) その他</p>
議事	<p>1 開会 (事務局)</p> <p>時間になりましたので、ただいまより、湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会を始めさせていただきます。初めに湖南省教育委員会教育長あいさつをお願いします。</p> <p>(教育長からの開会の挨拶)</p> <p>皆さんこんばんは。この令和7年1月1日に教育長に就任いたしました。法山由紀子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この協議会、開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。平素はいろいろなお立場で、湖南省の教育行政にご理解ご協力をいただき、本当にありがとうございます。</p> <p>さて、本協議会は、部活動の地域展開を推進する上で、学校と地域が連携し、子どもたちの豊かな成長を支えるための仕組みづくりを話し合う場として設けさせていただきました。少子化や教職員の多忙化といった課題に対応するため、学校内だけで完結する部活動のあり方を見直し、きちんと協</p>

力した新しい形を構築していく必要があります。この取り組みの背景には、子供たちの健全な成長と多様な学びの機会である文化スポーツ活動の機会を確保するという大きな目標があります。

部活動は、生徒の人間性を育み、将来にわたる財産を築く場であると同時に、地域コミュニティと学校を結ぶ重要な接点でもあります。そのため、地域の皆様とともに進めていくことが不可欠です。

第1回となる、本日の協議会では、参加者の皆様と、同じ部活動の現状や、地域展開における課題を共有し、今後の方針や具体的な取り組みについて、ご意見をいただきたいと思ひます。スタートとなる今回の協議が、今後、より実効性のある施策を生み出し、地域と学校の新しい協力体制を構築するきっかけとなることを期待しております。新年度に向けては、皆様のお知恵と力をお借りしながら、子どもたちにとってよりよい環境を整理していきたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(事務局)

ありがとうございます。では続きまして、2、自己紹介、今からマイクの方を回させてもらいますので、一言ずつ、お名前を言っていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(長積委員)

立命館大学の長積と申します。ぜひですねいろいろと皆さん、議論できればと思ひます。どうぞお願ひします。

(山下委員)

湖南省スポーツ協会副理事長の山下と申します。協会長の代理で来ました。スポーツ推進部をやっていて、卓球協会の会長やってということで、ある程度は湖南省のスポーツの話ができないかなと思ひます。よろしくお願ひします。

(谷口委員)

湖南省でスポーツ推進の委員長しております谷口です。岩島先生に何か知りませんが、お願ひされまして、今回ここにに入れていただきました。協力できることは協力していきます。よろしくお願ひします。

(九條委員)

皆さんこんばんは。湖南省ちよいスポクラブの九條親道と申します。一番年寄りだと思ひますけども、1つよろしくお願ひいたします。

(園田委員)

こんばんは。湖南省スポーツ少年団の園田です。どうぞよろしくお願ひしま

す。

(事務局)

本日、文化協会会長の柴原様なのですが、連絡はないのですが、この後もしかしたら来られるかもしれません。また、PTA保護者代表としまして、甲西北中学校のPTA会長の丸井さんです。本日PTAの会議であるということで、ご欠席です。

(野口委員)

皆さんこんばんは。市立中学校代表で来さしてもらいました日枝中学校の校長の野口と申します。どうぞよろしく申し上げます。

(藪下委員)

皆さんこんばんは。中体連の代表ということで、本会議に出席をさせていただきます。甲西中学校の藪下です。どうぞよろしく申し上げます。

(小田委員)

こんばんは。市立中学校の部活動関係者ってということで、石部中学校の野球部の顧問をしています小田と申します。よろしくお願ひいたします。

(山口委員)

失礼します。こんばんは。私は滋賀県立甲西高等学校の山口と申します。3年前から、甲西湖南バレーボールクラブという中学生のバレーボールのクラブチームを立ち上げて、高校の男子のバレーボール部と並行して、運営をしているものです。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

次に事務局側。ごあいさつさせていただきます。

(法山教育長)

教育長の法山でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(永坂部長)

皆さんこんばんは。教育部長の永坂と申します。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(今村次長)

こんばんは。教育部次長の今村と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

(文化スポーツ課)

こんばんは。総合政策部文化スポーツ課課長しております。北村と言います。よろしくお願ひいたします。

こんばんは。同じく文化スポーツ課の松下と申します。よろしくお願ひいたします。

(学校教育課)

皆さんこんばんは。学校教育課長の青木と申します。

こんばんは。学校教育課の穴戸といいます。よろしくお願いします。

今年度、地域移行支援コーディネーターという形で任用されています中村と申します。よろしくお願いします。

担当をさせてもらっています岩島です。よろしくお願いします。

(事務局)

続きまして、本推進協議会趣旨説明をさせていただきます。資料の 2 をご覧ください。

湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会設置条例の方です。

この推進協議会、何の協議会なのかというところを簡単に説明させていただけたらと思いますので、資料の方をご覧ください。

まず、条例の設置目的ですけれども、先ほど教育長の話にもありましたように、今まで各中学校が実施主体になっていた文化スポーツ活動についてその実施主体を地域全体に広げていく。そのためには関係者が連携し、実施していくための体制づくりに向けた課題に総合的に取り組むために、この協議会を設置させてもらっております。

続きまして、この協議会で何をやるのかというところですが、推進協議会は、地域展開を推進するための仕組みづくりに関することを協議していただきます。また、地域文化スポーツクラブの運営方法等に関することを協議していただきます。他にも生徒及び保護者、スポーツ文化関係者、学校関係者等への調査、周知に関すること、今回のこの地域展開の 1 つの目的であります、教職員の負担軽減に関することを協議していただきます。

組織については以下書かれているところになります。また、第五条のところですが、本協議会は、会長及び副会長を、置くこととなっております。次のページをご覧ください。会長及び副会長は、この本協議会の議長、副議長も兼ねることになります。また、この会議に関しましては委員の過半数が出席しなければ開くことはできないとなっております。また任期等、庶務等に関しては、以下に書かれている通りです。またご確認いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

(事務局)

では、続きまして、会長、副会長選出というところで、会長副会長に立候補される方、または推薦される方おられるのでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようですので、事務局案に一任させてもらってよろしいでしょうか。

なし。はい。ありがとうございます。

では、事務局案としまして、立命館大学教授の長積委員に会長、湖南省中学校長代表者の野口委員に副会長をお願いしたいです。よろしくお願いします。では、次の移動の方よろしくお願いします。

2 議事

(長積議長)

立命館大学の長積です。議長といいますか、会長というか司会進行役をですね、させていただければというふうに思っています。

もうすでに皆さんいろんな情報を知ってらっしゃるということだと思います。もともとこの現実を受けとめなければならないという意味では教員の方々の働き方改革っていうのが、先に出たということがあってですね。子供たちがなおざりにされているとかですね、そんなことがいろいろありました。すごく、いろんな誤解があったのですけれども、この今回の中学校の部活動地域展開という名前でありました。もともと地域移行、地域連携地域移行ですね、言葉をもう少しわかりやすくするために、地域展開という名前にするかということになります。もちろん教職員の方々の働き方改革もそう、もちろんですけども、今回ですねやっぱりかなり大きな改革。

スポーツ行政でいうとするならば、総合型地域スポーツクラブが1995年ぐらいのときから推進され始めて、もう各所がかなりのお金を突っ込む大きな事業になったのがこの部活の地域展開なのかなと思っています。

流れとしては、当初は地域スポーツクラブを各市町村とも1つ以上つくるという政策が進められてきて、地域に一定の素地を、文化を育むための地域の基盤づくりをしてきたところに、本当に本丸の中学校の部活動というのを地域展開していきましようという流れが出てきたのがこの政策なんてことになります。先ほど申しましたように地域連携地域移行という言葉があったときに、多くの方々が、中学校の部活動をそのまま、地域のところにパッと丸投げをするっていうの、地域移行という意味、判断をされたところはかなりありました。後でも議論になるところになると思うのですけれども、我々がここにいる委員の皆様方で考えたいというのは、今回の部活動のこの地域展開ということに気にながら、中学校の部活動の改革をしてみたって、いかにして、湖南省の中学生のみならず、多くの方々が、文化とかスポーツに親しめるような、ひいては、それが社会課題の解決だとか、まちづくりに繋がるような、そのような、新しい仕組みがですね、つくればいいのか。それは、まるっきりゼロからすべて新しいものを作るというよりも、むしろですね、皆さんの今まで持っているいろんな素地のあるところを

生かしながら、多くでも 1 人でも多くの方々ですね、この文化とかスポーツとか芸術に親しめる環境をつくれるということを目指しながら皆さんと議論させていただきたいなと思います。ぜひご協力よろしく願いしました。

(野口副議長)

中学校でずっと教諭をしていました。部活動の担当も、ずっとしてきましたし、それから、自分子供が 2 人いて、幼いころはスポーツ少年団野球とかバレーボールをしていました。だから、中学校、大学まで、それを続けてきて、やっぱり学校の中の部活動、ものすごく意義がある活動だなあと、自分自身も感じていますし、これから子供たちにも、やっぱりそういう活動が残っていったらいいなというふうには思っています。

ただ、今のお話の中にもありましたが、教員の働き方改革、というか、私自身ずっと 20 数年部活をしてきましたけど、月曜から金曜、学校へ行っている、部活動の指導をして、土日は練習試合とかして、もうずっとそういう、ベースでやってきて、別にそれを、あまり疑問にも思わずに続けてきたところがあるのですけども、やっぱり、今の若い先生方の中には、そういった体験とか経験が少ないっていう先生もありますし、自分が専門的に指導した部分、競技をした学校で、担当してくださいということで任されて、それを探り探りやっているのですけども、十分保護者や生徒から、そのやり方を受け入れられる場合はいいのですけれども、うまくそこがいかない。こういった場合も出てきている場合もありますし、そういったところで、だんだんと活動そのものが、やっぱりこうちょっと負担だ、こういうふうに感じている教員も、やっぱりいます。その中で、この部活の地域展開、こういうことを考えている、聞いて、どういった形で、その活動を残していくのか、これからにつなげていったらいいのかということ、市全体で、皆様の力を借りながら、設計していけたらというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願います。

(長積議長)

今先生がおっしゃっていただいたようなことがあると思います。この後、いろいろ議事を進めていきたいと思います。今日は 1 回目ということがありますので、湖南省の、現状を知らない部分は僕だけだと思うのですけれども、現状の方ですね、ご説明いただいた上で、実際に湖南省がどこの方向に向かっていくのか、どんなタイムスケジュールで進めようというのは、一応現段階でどう考えているかどうか、そのあたりを今日は議論させていただきたいなというふうに思っています。それでは 1 つ目の議題になりますが、

湖南省部活動の地域展開の現状と方向性というところで、これ岩島さんに。
(事務局)

前段に本日第 1 回ということで、もう皆さん重々ご承知のことだと思
うのですけれども、お話をさせていただきたいと思います。

先ほど言いましたけど、私今年度、中学校部活動地域移行支援コーディネ
ートということで、任命されている、改めて中村と申します。

実はもう退職して 5 年になるのですが、教員現役時には、一生懸命、自
分で自ら部活に取り組んできた 1 人です。勢い余りまして、今、部活動指
導制度にのっとりまして、休日を中心に、子供たちと活動しています。
私たちですね皆さんも含めて、私たちが活動してきた活動という、まさに文
化芸術スポーツ活動に身近に親しむ機会を子供たちにも何とか残してあげ
られないかと。どんな形がよいと、これから皆さんとの協議の中で、進めて
いこうかと思えます。

座って説明させていただきます。岩島先生の方から資料 3 が出されてい
ますが、本日、改めて、2 枚だけ大きな流れということで確認させていただ
きたいということで、2 枚、スポーツ庁のものと、滋賀県の分を別途用意さ
せていただきました。こちらの方でちょっと説明をさせていただきます。
よろしいでしょうか。

委員の皆さんは、もう十分ご承知いただいていることだろうと思いま
すし、もう事前に大きな資料、配布されていますので、お目通しいただいた
ことかと思うのですが、本日 1 回目ということで、少しだけお時間をちょう
だいしたいと思います。

まず、資料を、見ていただいてよろしいでしょうか。これは令和 4 年 6 月
の提言でありまして、文化庁のほうからも 2 ヶ月後の 8 月に、同じような
もの、文言がちょっと文化面等と違うので、同じ方法がなされています。
その上段、右の課題のところをご覧ください。

先ほどご挨拶の中、或いは教育長の、話の中にもありましたけれども、今回
の改革の方向と捉えている課題を、大きくは 2 つと認識されると思います。

1 つは、少子化による生徒の減少によって、各部活動の活動が非常に困難
な状況、或いは停滞した状況。そうした現実があるということです。どの程
度か、先ほど、湖南省の状況ということありますので、説明させてもらいま
すと、20 年前は、中学生湖南省内で 1800 名弱、でございました。今年度の
中学生数は 1445 名。10 年先、推計から子どもの数がわかりますので、確
認しましたところ、1150 名程度。もう実に 35% 減ということで、加速度的
に今後減ることが推計されています。ということはわかりますように、その

種目ができなくなるという現実、これ世間でも言われていることが湖南省でも、かなり強く色濃く出ているということです。非常に恐縮ですが、私が指導している卓球部、3年前、着任したとき3年生はゼロでございました。2年生が2名。おりました。そのうちの1人はかなり熱心で、頑張りたいという気持ちもあったのですが、2人ですと、1人が「来ません」と必然的に休みになる。いう現状で、半分程度は練習ができなかった。幸い、1年生、8人入りまして、この1年生との練習で、男子と一緒に練習するとか、こうした形で、徐々に部活動としてスタートしたものでございます。その2年後になりますこと、今年度です。8人いた次の世代の学年は、力をつけまして、県で2位なるまでの力をつけて、よかったな、頑張っってやって体験をしてくれたなというふうには思っておりましたが、チームとしての活動を充実したのですが、その子らが3年生後半、今ね。引退した今、次の学年は5名、その次の新入生の1年生、3名でございます。卓球は6名。チームを含めますが、残念ながら、2年生と始めたばかりの1年生を団体に入れるということで、何とか秋の大会に出場できたということでございます。前年度県で2位のチームですが、秋の大会がブロック1回戦負けでございました。もちろん勝負だけが目的ではないです。楽しくやってくれていますし、こちらも日々の活動でも指導面でも満足もできているのですけども、子供たちにとって、成績面でも、なかなか達成感が得られない現状だと思っています。顧問の先生と話しております。まさに少人数化という実態がここにもありました。

それともう1つの課題は教員の、先ほどからご指摘もありました、働き方改革に関わることでございます。中学校現場では、基本的に全教員、何かの担当をします。国レベルの調査では、47%でしたかね、経験した競技を受けもったというのは47%で、半分以上が、経験したことない。種目の顧問になっていることが報告されています。その心理的な負担とともに、休日指導、或いは大会引率、また役員業務等で大きな業務負担であると指摘しております。少子化により、1つの学校で活動するには、今後ますます困難な状況が出てくるということと、教員だけにゆだねたまの部活のあり方は、持続可能なあり方として、難しい時期が来たということが、課題として、指摘されていることでございます。

そうしたことを踏まえて、どう対応すべきかを示してくれたのが、表中段の目指す姿に書かれていることでございます。国はこの少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術スポーツ活動に親しむ機会を確保すると打ち出すとともに、教員の働き方改革をすることを通じて、教育の質を向上す

ることを打ち出しています。さらに改革はするのだけれども、部活動は、継承発展させるとしました。具体的にどうしていくかということで、これしなさいということではないのですけれども、非常にこう、こうした方向でまず、進めなさいという方向では、すぐ部活動をなくすという方向ではなくて、休日の活動から段階的に地域と連携した活動ということと、それをこの取り組みを令和5年度から令和7年度の3年間に推進する、この推進期間という、3年間は設けている。非常に申しわけないように思いますけど、もうその期間も終了しようとしている現状でございます。地域の実情に応じた取り組みをしていくように指示もあります。新しい視点として、私も感じるのですけれど、学校活動だけでなく、地域に於ける活動機会を取り入れて、多様なニーズに合った活動機会の充実を図るといことも、言っています。多様なニーズとは、複数の種目の経験ができること、或いは、レクリエーション的な内容を取り組めたりすることを指すと考えられますし、こうしたことがいろいろ議論されているところでもあります。また、地域の文化芸術スポーツ面での活動の皆さんとの連携強化を進めることということが、今日のこうした教育に繋がっている点でもあろうかと思えます。

文化芸術面というところでは私も、この湖南省のすべてのまちづくりセンター等で、地域の方が活動されている、いろんなサークル活動も含めて、取り組みを見せていただいたり、例年、ちょっと情報提供いただいたり、そういうことにも取り組んできました。その中では、中学生が興味を持ちそうなものも少なからずあるなというのがちょっと、情報提供いただいたものとしての思いでございます。また、この国の示していることの中に、多少私見を挟んで恐縮で、あるのですけど、去年かなと思えますが、この改革を通じて、新しい価値ということができてきます。新しい価値っていいものは、もちろん多様な人数、いわゆる多少高い体験とかレクリエーション的なこととか、これもそうなのですけど、今までの枠組みでは、子供たちが出会うことが親と学校の先生が多く占めますけれども、地域に開かれた活動を通して、地域の皆さんとの出会いがあるということ。また、いろいろな世代の方との活動が見込めるということも指しているようにとらえられます。高校生或いは大学生、また成人した大人、高齢者の方々といろんなことの間わりが見込める新しい形が期待されているように考えています。今日来ていただいて先ほどご挨拶の中にもありましたけど、甲西湖南バレーボールクラブKVCさんの活動なんかはまさに、高校生と一緒に活動をしていただいていますし、大学生の方が、コーチになって指導にも関わってくださっています。

あと滋賀県がどんなことかといいますと、滋賀県における学校活動、地域連携及び地域クラブ活動移行に向けた方針、これを昨年度末、ちょうど1年ほど前に出しています。その資料をもう1枚つけさせていただきます。同じようにその子供たちの活動の場を確保する、これは国ももちろん同じくとおるのですけれども、その中で、ハードのところにかかれている、県の方針ですけど、学校部活動、地域連携を進めながら、持続可能な活動体制を作るといふことと、休日の部活動から段階的に新たな地域クラブ活動への展開を進めていくといふのを私たちも担当者から説明を受けるのですけれども、そこでいろいろと、そういう方向で各市町取り組んで欲しいといふことを、言われている状況です。この地域連携の非常に言葉広いし、いろいろな考え方があるのですけれども、後で触れたいと思います。3の、その欄の3の学校部活動の地域連携、新たな地域クラブ活動といふところに書かれている学校部活動から下の矢印を見ていただければよろしいでしょうか。学校部活動の地域連携について、県が、ちょっと明言されたこういうことを中心にと言われました。

ここでいう地域連携とは、今の学校活動は、地域の方に部活動指導員とか、外部指導者という形で、支援していただくといふ、当面の形は、そこにスタートを切らないと進まないといふふうに使われています。多くの種目で経験教員が不足しており、指導休止しているケースもありますし、子供たちももっと専門的な指導をして欲しいといふ中で、成果、期待されますので、また特に部活動指導員、私、そうなのですが、休日にほぼ都合が悪い場合、代わりに私1人学校の教員がいなくても、活動指導ができますので、教員の負担軽減の一翼を担っているという状況であって、もう1つが、学校部活動から任用への矢印が書かれている新たな地域クラブ活動でございます。これが団体の皆さんや、その他の組織による中学生の活動を指導したり、いろいろ持っていただいたり、或いは中学生とともに、活動できるクラブを立ち上げていただくようなパターンかと、いふふうに思います。民間事業者を含めて幅広く検討される必要があるのかなといふふうに思います。非常に課題がなかなか難しい状況でありますので、県は、その中央の下に書かれていますように、地域の実情に応じて、当面はという形で、残念ながら、先送りの現状があつて、足踏み状況が続いている市町が多い。県下では、彦根稲枝中学校のように、休日分学校は完全地域クラブ化したところがある一方で、近江八幡市のように、なかなかこう地域クラブ化は難しいとして、学校活動支援に施策化されたところがあつて、様々ないふ状況から、県としてもこの方向でいくといふ確固たる方針を示していく現状が

あることを申し添えて説明を終わりたいと思います。

このため、皆さんにはお知恵をいろいろ出していただき、協議が進んでいくのかなというふうに思います。湖南省の検討している具体的な取り組みを岩島の方から説明いたします。

(事務局)

内容が重なる部分もありますので、その辺りは省略させてもらいたいと思います。まず資料3の最初のところですが、地域移行を消して展開とさせてもらっています。以降から展開の部分については会長の方からお話があった通りです。続いて、地域展開とは、もう先ほどからお話があります、学校の部活動の主体を地域の文化スポーツクラブに変えていくというところ。地域展開の目的としましては、大きく2つです。1つは、子供たちが継続して文化スポーツ活動を楽しめる環境を作っていきましようというところ。そしてもう1つは中学校の先生の働き方改革となっております。続いて、国や県の動向としましては、先ほど中村の方が説明させていただきましたので省略させていただきます。続いて、市立中学校部活動の現状というところも先ほど説明があったように、急激に今後少子化が進んでいくというところでもあります。続いて、部活動の入部状況の細かい表になっておるのですけれども、全体の7割から8割の生徒が部活動に加入しています。最近の傾向としましては、文化部に加入する生徒が以前より増加しているかなあというところで、見ていただいて学校によって、この部活動数の差というのは、やはりあります。なので、子供たちからしましたら、入学したら、その学校に希望する部活動がないっていう、現状もあります。続きまして、現状の把握ということで2年前、もう2年前にもなるのですけれども、アンケートを実施させていただきました。中学校1年生2年生、小学校6年生、教職員と保護者の方にアンケートをとりました。その結果ですが、まず中学生の方なのですけれども、中学生は部活動が、楽しいとか、学ぶことがあるというふうに、肯定的な意見があり、中学生として活動に対して、内容は満足しているという結果でした。また、地域展開に関わってなんですけれども、部活の練習が学校外で行うようになっても参加しますかっていう問いには、参加しようというのは半数かなあという結果となっておりました。他の学校等で行うことについて肯定的な意見が多いのですが、やはり場所やメンバーが変わることについて不安を感じている生徒も一定数いるかなというところがわかりました。続いて、小学生の結果です。

小学生には、こちらってなったら、どの部に入りたいですかみたいところで聞かせてもらいました。

この項目は、この市内にある学校の部活動のところから選んでもらったところ。その結果から言いますと、小学生が入部したいなと思っている部には多くの生徒が入れているのですけれども、やはりこう思っていた、入学してきたけれどもそのやってみたい場所がないなあっていう現実です。また、小学生に進学する中学校以外でも、練習後に参加しますかっていうところ、小学生はやはり不安が大きいのか、入学に関しても不安もある中で、違うところに行くってことで不安が大きいので、やはり中学生の結果よりは、否定的な意見が多かったかなというところ。です。

続きまして教職員の結果です。学校指導が業務の中で大きな負担になっていますかっていうところに関しては、8割の教員が負担を感じているという結果です。ただ、地域展開に伴って希望する競技種目について、指導に関わっても良いですかっていう問いに関しましては、指導に関わりたいていう思い、教員が約半数っていうところ。今後、希望される教員も今後の指導者の大きな人材となっていくかなというふうにとらえております。

続きまして、保護者のアンケート結果です。保護者に関しましては、部活動を学校ではなくて地域や民間業者にゆだねてもよいですかっていうことに関しましては、約7割程度の保護者が、そこを肯定的にとらえております。ただ、土日の部活動が地域に展開された場合、指導や思いに関わりたいていという質問に関しましては、1割も満たない結果でした。

ただ、割合としましては1割満たないのですけれども、この人数としてみますと、約60人。関わりたいと思ってくれているっていうところがここは、人材としては大きいのかなというふうにとらえています。

ただ、今回のこのアンケートに関しましては2年前のものでありますので、来年度再度さらにまだ具体的な内容について聞いていかないとはいけなかなと考えております。続きまして、学校の課題についてです。ここ、先ほどからたくさんのお話がありますが、少子化による部員の減少であったりとか、子供たちのニーズが多様化していたりするという課題です。また、教員の専門的指導の難しさであるとか、超過勤務のことが課題としては挙がっております。続きまして、他市の取り組みです。

先ほど中村のほうから話がありました彦根での稲枝地区の取組や、米原の伊吹山中学校の取組等あります。それぞれ、地域によって差はありますというところ。です。

続きまして、湖南省が目指す姿っていうところなのですが、今後、どういう方向に進んでいるかというところなのですが、やっぱり学校教育の枠組みから生涯学習の取組へ広げていくっていうところ。

子供たちの文化スポーツ活動を地域に広げることで、地域全体の文化スポーツ活動を活性化していくというところで、学校部活動を支えるために今、現状市内各校に2名ずつ部活動指導員を任用しておりますが、学校の部活を支える地域連携ではなく、今後は、子供たちが地域に出て行き、地域の文化スポーツとともに盛り上げていく、そのような活動の地域展開を進めていこうと考えておるところです。

続きまして、湖南省の方向性とは、どういうふうにやっていくのかというところなのですが、3つ挙げさせてもらっています。

可能な部活動から地域展開。まず1つ目なのですが、この可能というのは、今運営が難しくなっている部活動があります。そのようなところから地域に展開したり、地域の方にこういう指導者がいるからということで地域展開を進めたりすることが可能なおところということです。2つ目、土日の活動から地域展開。平日も含めてすべての活動というのはなかなか現状としては難しいですので、実施しやすい、休日の活動から進めていくということです。そして3つ目、新たな文化スポーツ活動の場づくりというところで、先ほど中村の方も新しい価値というところの話もあったと思うのですが、今までの部活動になかったような活動の仕組みとは違う誰でも、どんな年齢であつたりしても関わられるようなそういう場も考えていきます。

続きまして、地域展開に向けて湖南省が、今まで何をしてきたのだというところですがここに挙げさせてもらっている通りです。令和4年度、2年前にこのアンケートをしまして、実態把握をしました。当初は、地域連携というところで、部活動を支えるために何ができるかなというところで話を進めておりました。ただ、令和5年度、なかなかそこはもう難しいといえますか、ですので、やはり市としても地域展開の方へ方針を決定して、進めていこうということになりました。そして、国の実証事業で申請をしまして、ではその実証事業も、モデルクラブチームっていうのを、作らないといけないうところで市内の中で活動されています KVCさんの方をお願いして、一緒に進めてもらっている現状であり、令和6年度は、地域コーディネーターの設置であり、部活動地域展開を進めるために、推進チームということで、学校教育課だけではなく、文化スポーツ課にも入ってもらい話を進めているところです。今回のこの部活動地域展開推進協議会を設置させてもらいました。令和7年度に関しましては、新たに地域クラブを立ち上げたりとか、この後説明させてもらいます推進計画であつたりとか、ガイドラインの策定等を考えておるところです。

続きまして地域展開の課題と対応のところですか。地域展開するにあたって、課題は本当に山積しているかなと考えております。施設、指導者のこと、会費や保険のこと等あります。詳しくはこの後の推進計画でお話させてもらいたいかなと思っております。現状、今、教育委員会が連携している地域クラブとしましては、KVCさんをモデルクラブとさせてもらいまして、あとソフトテニスのLBLという、クラブチームありまして、ここは立ち上げ等から、携わせてもらっています。

いろいろな手続き等の補助や、甲西中学校のテニスコートを優先使用できるようにということで、連携させてもらっています。続きまして地域クラブってところなのですけども、今は学校教育課の方が、地域にあるクラブチームと、ここで連携しているってところなのですけども、今後は、事務局を立ち上げまして、様々なクラブチームを円環的な統括的な組織に、進めていきたいなというふうに考えております。

最後なのですけども、今後向かっておる地域展開に向けて今後の対応ということなのですが、今までどうしても狭い範囲で、事務局がそのクラブチームと関わっています。それはまだ学校にお伝えするってところなのですけども。地域の方に、協議会の中でも、来てくださっていますが、地域の方とともに進められるような仕組みづくり、また、地域保護者の方にどんどん発信していくような、市システムにしまして、皆様とともに進めていきたいなと思っております。とりあえず資料3の方は、ここまでとさせていただきます。

(長積議長)

ありがとうございました。少しだけ補足をさせていただくと、改革推進期間なんで今幾つか時期を分けてやっているのですけどもこれはもう当然これ行政側の国の方針であるってことがありますので、湖南省がそのピッチで進めるかどうかというのは、それはちゃんと見定めていく必要があるってことです。もう1つは、大きな思い込みがあるってというのは、休日やってから平日やらなあかんっていうそのステップを踏まなければならないかどうかっていうのは決まっているわけじゃないのです。だから、私が関わっているところというのは、休日やって、その次2段階目に平日やるって地域もありますけれども。2段階の改革になると、子供たちに新しいスタイルを確立して、またもう1回平日やるって言ったら、2回の改革になるからそれを受けたいっていう地域もあって、休日平日問わずできるところからやろうっていう地域が増えているところが多いというのが、もう1つあります。ですので、それが湖南省の中で、何がベストなかどうかっていうのは皆

さんの実情に合わせていったときに、どうしていくのか、必ずこうやり、休日からやらなければならないのではなくて、いずれ芸術も見据えていくことは、特に、湖南省では、両にらみでも行くのか、ステップを踏むのかどうかはまた皆さんのご意見をいただきたいというような1つであります。あとはですね、中学校の、生徒数が減ってくるとかっていう状況はこの危機があつてですね、我々この危機に立ち回らなきゃならないっていうことがあつたときに、ちょっと後ろ向きな発想なのですけども、それはちょっと避けたいのかなあ。現実、今回の検討する機会っていうのを、もっとポジティブにとらえていって、どうやったらもっともっと湖南省で豊かな文化スポーツ芸術に楽しめるような機会が想像でき、地域の方々が連携を図れる機会になるのかどうかってそんなことをもっと前向きな発想でぜひ、議論をいただきたいっていうのがあります。あとは、いろんな地域にある実情みたいなことですね。私、今、京都、滋賀県たくさん関わっているのですけれども、他府県の事例も一応ありますのでそのあたりは随時、皆さんの方です、ご紹介しながらしたいのかなというふうに思っています。

今の進め方じゃなくて、滋賀県と国と滋賀県の方向性、そして、今、岩島さんに説明していただいた、湖南省の実情で、少なからず、16 ページのところからですね、書かれているような湖南省が目指す姿ということがあると思いますので、この辺りで、皆さんのですね、ご意見をいただければいいのかなと思っていますっていうのは、この後推進計画の方に話したいと思うのですけども、幾つかわかっているところで、目の前にあるオペレーションのことって結構気になるから、割と細かいことを議論していくと思います。そのオペレーションの話だけでも話がなかなかまとまらないということになります。オペレーションは当然、検討する必要があると思うのですけども、少なからずやっぱり、私の経験上、この町でどういう形とかどういう姿を描いていくのかというようなことを、できる限りコンセンサス終えた上で、そのベースも考えていくという形にできればいいのかなあと思っていますので皆さんが、この湖南省の向かうべき方向性みたいなところ、地域の実情を踏まえた中で、こんなことができるのではないかとか、こういうことは解決したらいいのではないかとか、意見があればですね、忌憚なくいただければいいのかなと。いかがでしょうか。

どんな感じかも結構なのですけども。差し支えないのだったら一旦、中学校の先生方にですね、どんなような実情なときに判断されていて、この今の今日のこの改革みたいなことをですね、どんなふうにとらえていこうとしているのかどうかっていう。

このあたりを、まず中学校の先生方にですね、もちろん先生も聞いていただきますけども、まず、藪下先生とか小田先生からちょっと、何か実情を。

(小田委員)

すいません失礼いたします。実際に現場で部活動の指導をして、子供たちと接している立場として、思うことを述べさせていただきます。私、石部中学校に来てから湖南省に来て5年なのですけども、来た当初ってというのは、同じ甲賀市各校1チームずつ、野球部のチームはありました。ですが、今でしたらもう湖南省で、石部中学校と日枝中学校のみで、その2校もやはり人数が減ってきて2つでひっついている。甲賀市におきまして、もう単独チームができていのは水口中学校だけです。あとはもうそこもひっついてこの湖南省甲賀市で、実は中学校チームは4つしかありません。

ていうような、そのような現状になってきて、そこで、野球の、子供が減っているっていうのもあるとは聞いたことあるのですが、実は高校野球大学野球の指導者の方々に話を聞いていますと、別に大学野球は人数がそんなに減ってきていないというふうな話も聞いていますのでやはり我々の魅力を、もうちょっとやっていかなあかんのかなとも思って、正直いろいろな動きをしている状況です。今日もこの会議に来させていただくに当たりまして、学校のいろんな部活動の先生方にいろんな話を聞いていたのですけども正直、ちょっとよくわかっていませんというのがやはりもう我々現場で、若手で、実際の活動をしている人間からすると、そういう意見が多かったかな。先生が先ほどおっしゃったみたいに、まず土日からなのでしょうとか、そこから平日なのでしょうっていうのが、ほんまに、本校しか聞いていませんけども、野球関係で僕一応県のブロック長をしていますので、県の会議で野球のいろんな方々にあっても、その方々でも同じような意見を持たれていますので、だからその辺、子供たちにというのも大事ですけども、我々教師陣もしっかりと理解していかなあかんのかなというふうな思いであります。

このバレーボール、ソフトテニスのクラブチームの方、クラブチームをつくられたってことで、軟式野球も、今年度からクラブチームが参入するようになりまして、なかなかその中体連にない中学校チームと言えば、地域に根づいたクラブチームというところでの一緒に盛り上げていこうっていうところを頑張ってはいるのですが、やはりそこもなかなか難しい状況で、まずは、もう我々も、ちょっと勉強していかなあかんかっていうか、今日、今お話も聞かせていただいて。

(長積教授)

ありがとうございます。今、伺っていると、学校の先生方の意識もなかなか十分な認識もないということで、もう1つやっぱり、中学校のところで単独で部活をやるのがなかなか難しい状況になってきたっていうのも、赤裸々なご意見だったのかなと思います。よろしいでしょうか。

(藪下委員)

失礼します。今ほど岩島指導主事の方から、資料3に沿って、湖南省の活動、地域展開について、湖南省の今後、目指す姿、湖南省の方向性についても、資料にまとめていただいています。3学期に入りまして、学校の方の職員会議で、教育委員会の岩島指導主事の方が、各中学校も1校ずつ回られて、この資料に基づいて、今、現状がこうです。そして、今後こういうことを考えていますというのを、職員会議の冒頭、時間10分ほど、いただいて、説明をしてもらいました。そのあとにですね、職員、各中学校の全教職員からアンケートをとりまして、その説明について、感想であるとか、今後の不安であるとか、そんなことをまとめたものを、私もすべて目を通して今日この会議、臨んでおります。本当にひとくくりにはできないなあというのは、やっぱり保護者にして、それから生徒、選手の視点。そして、教職員として、或いは地域として、様々な視点で考えていったときに、本当に先生方一人一人にとっても、本当に受けとめ方がもうまちまちだなということと、今後どういうふうに進んでいくのかっていう部分についての不安をやっぱり抱かれています。生々しい感想もありますし、管理職としてその先生方も、見守るといえるか、管理する側としては、働き方改革っていうのはもちろんありますけども、片や、やっぱり部活動としてという熱心な先生がやっぱり正直、いらっしゃいます。そういった方々のやっぱり熱量も大事にしていきたいですし、子供の、いわゆる文化的、体育的な活動の保障機会もきちっと保障する部分を大事にしていかなければならないなというふうに思いますと、本当に目指す姿であるとか、そういう方向性というところまで、議論をしっかりとしていく必要性がやっぱりあるというふうには感じています。

(長積教授)

ありがとうございます。今おっしゃったように、他府県の事例とかで、わかっているのは、できる限りこうなりますって言って決まったことをバツと下ろすとですね、ハレーションホールです。だから、今こんな感じで進んでいてこんなことを考えているって言って、できる限り学校の教職員、それから、保護者の方々、そして、地域の関係者の方々に、できる限り今の実情で、湖南省がどんなふうなことを今考えていて、どんなふうなことを検討しているのかどうかって早い段階でも、情報共有というのは非常に重要とい

うことを今、痛感をしました。

もう 1 つは、今このデータのところに載っていますけれども、部活の地域展開になったときにですね、希望する競技種目を指導できるのだったら、関わってもよいてというのが 15%、場合によっては良いてのが 40%、55% なのですけれども、全国的なデータは、自分の希望する種目じゃなくて部活動、いわゆる兼職兼業で休日平日やるといった場合に、やりたいと思いますかっていうデータは、大体 40%。40% ぐらいの方々がやってもいいよ、60% の方々は自分のやりたい種目と、自分の住んでいる地域で教えられるのだったらやってもいいよってのが、半分ぐらいいっちゃるってことがあるので、やはりそれも実情、いろんな先生に教えていただいたように、いろんな実情を踏まえていった中で、我々がどうやってこの先生方にも一定協力をいただかないと、人員の問題は難しいことがあるのかなと思うので、このあたりはやっぱ、教職員の方々の助けが必要であるのかなと思いました。働き方改革の中で、この部活動のお話が出てきているところがちょっと大きいかなと思っていて、学校の職員の中には、もう中学校から部活がなくなるのかというふうに思っている教員も、これ進んでいったら、そういう形が最終形としてあるのかなあと思っているのはあると思います。

どこにまず線引きが、今おっしゃったように、中学校教員も一定その部活動っていう活動を残していくのやっという形で、話を進めていく上で、そうしたら今の教員の負担感とかをちょっとでも減らしていくような何か方策ないのか、例えば東近江市みたいに、部活は 5 時までです。こういうふうに時間を区切って平日の活動時間をきちっと決めてしまって、あと土曜日、日曜日については、全県的に統一されているようななら、どちらか 1 日は活動をして、1 日は休業日にしなさいってというようなことで、一定教員の今感じている負担感を、ちょっとでも軽くするというかそういう方法を取りながらやっていくっていう方法もあると思いますし、もう近江八幡のように、もう部活は学校からなくさない。もう、だから、その負担と感じている教員の負担感を取るために、市の方でお金つけたりとか、県からも引っ張ったりしながら、指導員の数をふやして、ちょっとでも活動しやすいような形を整えて残していこうかっていう形。もう、市町によってはありますし、そのやり方というか、どういう姿になっていくのかなあというのを考えていく。

これは教員の立場で今僕しゃべっているのですけれども。ただ、ちょっと間違えると、働き方改革っていうのも、先生が楽しただけちゃうんかみたいな、とらえ方になってしまうと、もう昔の先生は熱心に見てくれていたのに、今の先生なんや。これは、学校と保護者の信頼関係とか、そういったも

のを構築する上では、何かこうすごくこう壁になるような感じもしますので、そうならへんようなやっぱり形も考えていないなあというふうに思うので、こうやってすると、多分賛否そこにあられてきますし、かと言って、今のままやったらやっぱり何もせえへんのかみたいな、感じにもなってしまうなというふうに思っていて、どういう形が目指す方向でいいのかっていうのを、この中でいろいろご意見いただければなど。おっしゃる通りだと思います。

正直な話、中学校の京都府のデータなのですが、中学校の先生、1ヶ月のいわゆる、何か残業時間というのが80時間ってというのは、過労死レベルと言われているのですが、京都市の京都府の場合ってのは、大体57%ぐらいと言われています。実質上、他の民間の方々もそうですし、学校の先生もみんな忙しいのですが今、藪下先生おっしゃったように、お前だけがしんどいじゃなくて、俺もしんどいねって地域の方々と言われるから、見せ方とか伝え方をうまくやらないと、学校の先生の今の苦しい状況で理解されないということで、ここがうまく伝えなきゃいけないのかなというふうに思いました。

あとは、中学校の先生が全国的に40%やりたいと思っているその、ほとんどの数が、保健体育の教員と音楽の教員に集中しているっていうのも、それもあるという実情も報告させていただきます。1つは、可能性とするならば小中とか、実際これぐらいの話だろうかかなと思いますけれども。集合の連携ってなかなかやっぱり中学と高校って、時間の流れるスタイルが違って、業種の感覚とか、学校のスタイルが違うのですがなかなか難しいのですが、よく考えられているところは比較的やろうと思っているのは、小中連携って、もうすでにされているってことがあったので、先生が高校の先生の立場ということと今やられている中高の連携の中に、その辺りのお話もいただけますか。

(山口委員)

まず、私は教員でありながらクラブチームの代表をしているのですが、月の大体残業時間は140時間ですか、知りませんよね。まずは負担をどうやってするかっていうことと、ちょっといろいろ話があるのですが。ミクロで見たときにいろんな課題があると思いますが、もう少し私は、やることだけを考えているというところなんです。なので、私はいつも助かっているのは湖南市さんの、非常に先進的かつコンパクトかつ柔軟かつ行動力のあるところに助けていただいて、私の活動が成り立っていると思っておりますので、いつも岩島さんには大変助けていただいて、非常にすごく。ま

ず、これらのいろんな事例を聞いているのですが、もう少し大きなまちでは、こうだとか、それぞれの意見があるとか、そのこと自体が全く進まずに、結局は議論して、リスクマネジメントのために何も進まないということがあるのですが、湖南省さんは全くそういうことはないのです。すごく素晴らしいまちだと思います。私はその中で、高校の教員という立場って何が、このまちに貢献できるかなというところを考えています。まずは教員の働き方改革、いろんな細かい課題とか、細かいものあるのですが、最初に、教育長がおっしゃったような豊かな子どもたちの文化活動を確保するということが目的ですよということなのですが。それって何で必要なのですかねということを考えています。ずばり最終目的は、これはあくまで子どもたちの運動や文化的な活動を確保するってということなのですが、その行き着く先ってというのは、いや、魅力あるまちをつくる要はスポーツが、今後、今は中高生だけど、ここがすばらしいと思うのは、親水公園で元気に動いている高齢者の方がたくさんおられるすばらしいまちだと思いますよね。なので、まずはそれを基軸にしながら、最終的には、活力ある地域にスポーツでしていく。それが魅力となる。そうすると人が集まりいろんな経済活動が生まれる。いろいろな学びが、お互い、ここ今回は子どもたちだけの話をしていますが、私にもめちゃくちゃいろんな学びがあるのです。なので、私としてはこういうものをね、いろいろ読んでいますけども。つまり、行動から経験をしていくと。そういうところが必要なんじゃないかなあと私思うので最終的なところは、当然、子どものスポーツのパワー文化の場を確保していくということなのですが。いかにスポーツでこのまちの魅力を作っていくか、その魅力を、子どもも大人も、すべての世代が享受できるというまちであるべきだというふうに思っています。

それなので、あまりちっちゃいことは実は考えていない。今やっている企業からですね、アミノバイタルさんに協賛をさせていただいて、企業とコラボして、次はびわ湖成蹊スポーツ大学さんとコラボして、大学生をサポートメンバーで、湖南省総合体育館にお呼びする。一見、湖南省だけで解決しそうなことなのですがね。湖南省だけでは解決しないので、ただ地域と交流することによって、この地域が活性化するということが、私は重要なんじゃないかなと思います。今、子どもということで議論が上がっていますが、子どもが生き生きできるってことは、大人も生きがいがあるはずですよ。それなのでその辺りのことが、湖南省が目指すべき姿っていうと、そこじゃないかなと思います。あともう1つは中高の連携ですかね。中高の連携を、一見難しいですよ。でも、全く何も問題ないです。

こないだ九條さんと連携させてもらいましたね。湖南省は2025年に、障害者のスポーツの知的障害のバレーボールの大会をします。あまり実は盛り上がってない。そこを周知するために、私が高校生を集めて、障害者のチームと一緒に大会をしたのです。私、いろんな心配をしていました。そういう人たちに対して偏見があるのじゃないかなとか、初めてなのですよ。やってみて安心でしたね。すごくいい1日でした。だからそういうふうにして意外とやってみると、大丈夫、もしくはそれやってみると、駄目だった。そういうこといっぱいあると思うのですが、小学校中学校高校と一緒に大会をするのですが、そういう交流が生まれるっていうことが、まちの魅力を作り出すと思うので、なので私が一緒にやっている中学生は、大学生にもゲームをして勝てるのですよ。大学生ともゲームをするし、もちろん小学生とも交流するし、高校生とも交流をして、案外こっちが、これって難しいのじゃないかな。子どもにはできないのじゃないかなと思っていることが、やってみると意外とできるということなので、あまり途中を、何か連携とかって難しいのじゃないかなあって思っていることって、難しくはないのかなとやってみて、思っています。

ちょっと話長くなりましたが、質問にお答えできましたか。

(長積議長)

はい、ありがとうございます。

前半の話非常に大切なのかなと思います。僕はやっぱりこの、さっき言ったように、文化スポーツを享受できるということの経緯、行き着くところってのはやっぱりこの、湖南省というまちに対して魅力で、このまちに住んでよかったなというところに通じるころがいいのかなというふうに思っています。ですので、今僕、実は近江八幡市もかかわっているのですが、近江八幡市では、学校の部活動を守るということは言いつつも、今の、チームだけを、今のある種目だけを守るのじゃなくって、やっぱりまちのことを知ってまちのことを知ってもらえるようにするっていうので、同時に来年から実証事業であるとして、まちづくりクラブを作っています。つまりまちで起こっていること、そのまちのことに興味を持って行って、まちにいろいろとコミットしていくっていう子どもたちを育てるっていう、そういうまちづくりクラブを作ろうとしているのですが、今本当にやらせみたいなのが究極的に行って、このまちに住んでよかったなあと思っているのは帰ってくる。このまちにとどまるということになるといいのかなと思いました。あとは意外とびっくりしたのですがやっぱり、中高だけじゃなくっていろんなところ連携するこれは本当にそうだと思うのです。

今の中学校でやっている部活動と同じスタイルのところと連携するって
いうふうにすると、先ほど先生がおっしゃったように、時間が決まっている
とかいろんなことがあったりすると思うのですが、週本当に5日間やらな
ければならないのかどうかも我々は新しい仕組みの中で考えなきゃいけな
いし、我々が今まで持っている価値みたいところ、一旦リセットするって
いうことも踏まえながら、新しい仕組みを作っていくっていう発想も持つ
ていければいいのかなと今、山口先生が話されて感じました。

というようなことで、ぜひ、地域の方々、いろいろご意見いただければと思
うのですけど。

(山下委員)

湖南省スポーツ協会山下です。先ほど、卓球をやっているということでお
話させてもらいましたけど、うちの息子も中村先生がいらっしゃったとき、
あの時、近畿大会とかインターハイとか行かせてもらいました。

今、そんなこともあって、卓球にはすごく関わっているのですが、湖南
市体育協会は、2009年、平成21年から、地域に根づいた卓球教室って
いうのをやっています。これは中村先生の、指導していただいた沢田君とか、
それから親が中心になって始めたのですが、自分たちが大学卒業して、社会
人になったときに、昔の中学校の部活動の経験から、もっとこう、子どもた
ちに指導したいなという、そこが現れて、実はすごいチラシを作って、卓球
を学ぼうという、こんなチラシを。平成21年に子どもたちがもう、成人と
なって終わったことなのですが、教室をやりたいということで、私も探し
始めました。それが今ほとんど続いているのですが、ここでやっぱり一番感
じるのは、指導者の確保。これは地域ではもう、これが一番難しい。この課
題が解決できる場合は、皆さん山口先生のような立派な先生もいらっしゃ
るし、そういう方が出てくれば十分やっていけると思うのですが、どうや
ってその人材を確保するかというところが、これから一番課題だと思いま
す。私も関わって、今もう、これを継続してやってもらっている、この後輩
もいるのですが。うん。そのことによって仕事を持っているのですよ
ね。実際の仕事を持っているので市教職員の働き改革で残業を減らしまし
ようと言っても、その人たちの仕事をもっていて、この仕事と考えれば、も
うすごく長時間労働になるわけで、そういったところで、どうやって人材を
確保するかっていうのが一番難しいところだと思っています。

実際この教室も今、木曜日に、昨日やったけど今度はこんな形で、教室や
っているのですが、中学生もたくさん来てくれています。20年ぐらい
でそのまま、30年ぐらいとか、その子どもたちもすごく一生懸命やって、

自分なりの活動ができているかなと思うのですが、あとは金曜日土曜日が湖南省卓球協会での練習しているので、その教室じゃなくて、事前練習したらいいでしょうということで、週3回は練習できるんですね。そういう環境は今作っているんで、こないだもうあの甲西中の女の子なんか県の団体戦で優勝したとか、普通に卓球っていうのはクラブチームが、すごく力が強いので、そんなことなかなか勝てないのですがそこに勝って優勝したのですごく喜んでいました。そんなこともできてはいるのですが、これ続けるには本当に指導者をどうやって確保するかで、本当に一般の社会人でやろうと思ったら、すごく限界ですね、卓球なんかは、やっぱり自分の試合で出たいって人がいるので。

土日に試合があるのですが、そういうときに今後、引率していけるかとか。そんなこともあるので、あとは、中村先生にも提案したのですが、やっぱり教職員の方でリタイアした方、まだまだ60過ぎても元気な方いっぱいいらっしゃるんで、そういうところで、最も関わりたいという方がいらっしゃったら、そういうところから人は、確保できないかなとかいうこと等を、今後、考えていかないと、本当に今、一般社会で、特に30代40代の人なんかは、こんな仕事等の多分、手が離せない働き盛りなので、そんなところに、県からスポーツを指導してくれと言ってもなかなか時間が取れないですね。それなのでそういう人をどうやって確保するかという、人材とかもいろいろ方法あると思うのですが。そんなところを考えると何とかなるのじゃないかなというふうに思っています。

(長積教授)

はい、ありがとうございます。実際に指導者の確保って非常にやっぱり重要でやっぱり、多くのところは指導者つまり人材とお金も枯渇するとうまくいかないと総合型地域スポーツクラブのところで、もうすごく理解されております。ただし、人材確保といってもその方が働かれるという判断だったら、その週5日ぐらいやっているところにずっと指導者が行かなければならないっていう価値も変えなければならぬかなと。だから安全管理の問題って考えなきゃいけないのですが、今、他の地域で、かなり遠隔でやらなきゃいけないところっていうのは、映像を送ってそれでコーチングしたりするとか、オンラインであったりするとか、いろんな形もとられています。ですのでその現場に行き全部いつもいつもやっぱり見なければならぬ、できればそうなりたいけども、それがなかったらできないっていう価値も我々変えなきゃいけないってことです。あともう1つは、今、総合型地域スポーツクラブの方が、この部活動の地域移行のところに、なか

なかコミットされないことが多いというのは、中学生ってやっぱ競技力の向上になるから、そこを我々が面倒見るのはなかなかというちょっとこう引いてらっしゃるところあるのですけども、必ずしも我々が中学校の部活を提供しなきゃいけないのでは、競技志向ばかりじゃなくいろんな形もあるってということで、とらえて幾つもあるのかなというふうに思いました。大変ありがたい話を聞かせていただきありがとうございます。

(谷口委員)

正直私が今やっていますスポーツ推進の活動というのは、いつでもどこでも誰でも障害持っている方でもできるようなポッチャとかね。そういう提案を月に1回、湖南省の大会でいろいろやっているのですけども。

この地域移行の活動とは、ちょっと観点的には違うのかもわからないのですけれども、改革の、先ほど方向性という資料がありました。私のやっている活動というのは個性等の多様なニーズに合った活動機会と充実っていうのですかね。特に先ほど言いましたように年代層が違う方と、交流を深めるとか、私は別に逆の言い方をしますと、野球ができるバリアフリーではないのですよね。逆にできない子を集めたり、障害のある方であったりと。だから、私がやっていることが今のところ、地域移行で指導員を作るとかそういうのはちょっと方向的にはちょっと違うなとは思っているのですけれども。

今までいろいろ中学校、特に甲西北中学校生徒らですけど、年に1回、十二坊トレイルって、私、実行委員長しているのですけど、そこで北中の生徒が毎年大変ありがたかったのですけど、のぼり旗を作ってくれたり、看板を作ってくれたり、当日のエイドってわかりますかね。そこで水とか食料、ちょうど北中の前のところに岩瀬のところ。生徒が毎年協力していただいているのですけれども、いつも感じるのですけれども、甲西高校の生徒さんも、結構、例えば駅伝大会とか、そういうのがあったら来てくれますし、声をかけるとやっぱ来てくれる。先ほどから先生方の働き方改革ということで、いろいろ聞かしていただいている、どちらか言うと先ほどの藪下先生のアンケートの方が聞きたかったのですね。何か地域移行の、それを聞かせていただいたのですけど、本当に。何ゆえ先生方が困っておられる。こういう面を助けて欲しい。意外となかなか中学校の先生方の方から地域の方に、SOSの発信があんまりないのですよ。私は今までずっと小学校中学校というような、PTAの方も含めて生涯学習の関係でいろんなことをやってきたのですけど。なかなか、頼ってこられないのですね。頼ってこられないのか、頼ってくれる雰囲気がないのかどうかかわかんないのですけども。だから

地域移行地域移行言われても、本当に学校の先生方が何を困っておられるか。

例えばクラブ活動 1 つにしても、どれだけの先生がね、ほんまに地域の指導員の人に教えてもらってどういうふうにしたいかっていうそのところがね。正直わからないですね。ほんまに制度によっては、別に助けてもらわなくても、俺 1 人でやるよというような先生も中にはおられると思うのですよね。逆にそんな間に入ってもらって、よそでやられるぐらいだったら自分でやる。だから、今までやってきた中ではやっぱりもう少しこう、地域と連携、連携という簡単なんですけど、余りにも学校の先生方のほうから、S O S を出してきていただけないと。わからないのですよね。

スポーツ支援というのは基本的に出前講座とかがあったり、親子の響き合い活動とかそういうのがあったりしたときに、P T A だけではなかなか何もできない、難しいということで、いろんな種目について小学校とか、特に行かしていただいているのですけれども。そうするとね、結構そこから繋がりができてこういう、ニュースポーツをやりたいのだけどというような感じで、先生の方が言ってこられてまた親を巻き込んでやるというのがあるのですけど。ただ残念ながら先生が、あまり参加していただけないですよ。コミュニティスクールの関係で、湖南省で最初にコミュニティスクールのあれは小学校、その時のメンバー。その時の校長先生がすごく、地域との関わりってというのが、やっぱりその地域、地域によってやっぱり全然違うのですよね。すごく学校と地域が、関わりを持っておられるような地域もありますし、あまり関わりがないってところがあるので、改革に協力してくださいってというのはわかるのですけれども。一概に働き方改革だけとか指導員を作って欲しいとかね、学校の先生の代わりに、部活動を教えてください、何を一番求めておられるかっていうのが、すいません。私もあんまり考えがないのかわかんないのですけど、今回の地域移行に関しても、もう 1 つその、先生の生の声っていうのを、資料はちょっと見さしていただいていますね、方向性はわかるのですけど、実際に現場で働いている先生が何をしておられてこの地域移行をして欲しいのかというのが、伝わってこないのですよね。正直なところ、何を一番困っておられるのか。時間が多いかね土日休みみたいとかそういうのはわかるのですけど、現実の湖南省の先生方が何を困っておられるかというのを、僕は一番よくそれを聞いたかった。

(長積議長)

いいですか。藪下先生、これ全部言いますか、全部じゃなくてもう、めぼしいやつです。時間がなくてという働き方改革その話じゃなくって、地域の

方々に協力をえてもらいたいポイントみたいになるような、先生方の困りごとみたいなものが。もう先にいきます。すいません、もう 20 時で絶対に終わらないのですいません。20 時 15 分に最低だと思うので、ちょっと申し訳ないのですけど。じゃあ次ふります。先ほど言われた谷口さんの、話の中でやったのですけれども、全く競技力向上しないとか、なかなかそんな好きじゃない子集めたいていうことがありましたけども、湖南省って一斉加入じゃないのですよ。さっき 7 割 8 割と一斉化によって全員加入じゃないのですよね。

だから 7 割から 8 割先ほど部活動に加入されているという話があるとすれば、7 割 8 割の子供たちの活動も、注意すればいいのですけども、2 割から 3 割の子供たちが新しい文化とかスポーツとかの、出会いの場を作るっていうようなことからすると、僕は大きな意味があるのかなと思いました。続けて九條さん、すいません。

(九條委員)

地域スポーツクラブを立ち上げて、17 年、これを立ち上げた理由は、教育委員会さんも一番よく知ってくれていると思うのです。湖南省だけが、色を塗っていなかった。湖南省恥ずかしかったです。それが原因で、総合型スポーツクラブを全部するから、お金は出しても口出すなら、それが条件やろ言うて、立ち上げて、17 年、18 年経ちます。それで、立命館大学の先生。この先生以外の藤田先生にそばにあるのですけど、それは今の規定であるスポーツ推進会議の方にもやっても出ていますね。今日これやってもらっています立命館大学さんにご縁があります。そしてこの間から前の先生とご縁があって、実は、知的障害者のバレーボールに出ています。それを境に、東レアローズさん、湖南省さんがこないだやられたそれよりも前からうちがやっています湖南省で。これ、こないだびわ湖成蹊大学行ってやりました。

そんなお金も何も心配もないのですよ。もうお金の心配なのでほんまに。物の考え方だと思のです。子どもゆめ基金もらったら、40 万でも 50 万でも 60 万でもくれます。中学校の部活のそんなんでも、いろんなこと考えていけばいいのじゃないかなというふうに思いますので、藤田先生が今、湖南省のスポーツ推進計画をいろいろ考えている今日の長積先生が、今こういったことをやっているぐらいありますので、行政さんの方の線も、1 つ、一本には必ずか知らんけども、横の繋がりを今日は幸いこうして来ていてくれはるさかいに、今日のこの会議の意味がわかってくれはったと思のですけど、今日、来てくれてね。いや、藤田先生に対してね、悪いのですわ。

藤田先生がこっちやっってくださいねってこっち一生懸命やっているし、今日できればやったらと、実は1週間、10日前か。これの勉強会があったのですわ。それに寄せいただきます。その時に挨拶するとちょっとプレッシャーにかかるとあかんわね。そういったことで今日、せっかく先生来てくれたし、1つ、滋賀県で、それをやって欲しいなど。今おっしゃっていただいたやつ、市でビデオ見せていただきましたが、秋田の取組もぜひ、湖南省で話していただきたいというふうに思いますのでよろしく願います。以上です。

(園田委員)

どうでしょうね。うちら子どもが入っていたときから言うたら、かなり出ています。湖南省で350名ぐらいしか入ってない。現状、合併前の旧甲西町だけでも、800~900の人数がいたときも、だから、随分少子化になった。ここ近年、変わっていったっていうのは、3年前ぐらいですけども、少年団で2つの資格があったのですけど。現状は、スタートコーチ、この協会の方から、スタートコーチの資格がなかったら、指導者ができない。サッカー等、バスケットについては、4年に1回ポイント制で、資格を更新していくという形があるのですけど。それを持っていたら、今のサポーターの資格いらない。もう結局、4年に1回、更新していくと。大体1年間1500円の4年間1万円で一応湖南省の場合は公費で、全部それをあてがっております。以前から結局認定員等認定育成員の資格を取るのに、何しても、結局公費から、出していたので、あくまでもうどっちか言うとボランティアですので、なのもうどっちか言うと今私はもう歳の上の方で、結局もちろんそこよりまだ下の方のぐらい今の中学生の指導に対応できるかなと思うのですけど。もう70超えたおじいちゃんが怪我をないようにできないとか、そんなのを、私もどっちか言うたら、地域の方へ移行しはってもいいのですけども、いろいろ出てくるのじゃないかなと思います。以上です。

(長積議長)

指導者の高齢化は当然そうだと思いますし、資格の問題というのもですね、あると思います。資格は、その地域スポーツ界の中でいうとするならば、当然、公的な資格を持っている方々がいいってことですけど先ほど言ったように、実施することばかりということではないのかなあと思ったりすると、湖南省で、少なからず、こういうようなことは踏まえて指導できるっていう、スキルよりもちゃんとした哲学というか、考え方を持っている方々を認定して行って、その方々にやってもらうとかですね、そういうこともありかなと思って実はこれ徳島だけでかかったときには、藍住町という

ところは、藍住町の創造地域スポーツクラブで指導をする際には、藍住町の講習会を受けて、認定された人には、指導してもらえますよみたいなものだったりすると思いますので、我々が求めているその指導者の資質ってというのは、もちろん高いレベルを持ってらっしゃる方がやってくださったらいいと思うのですが、湖南市が大切に守りたいことをちゃんと理解されている方々だったらできるという、ちょっとさ、ハードルみたいなものを変えていくというのも1つなのかなと思いました。

(藪下委員)

先生方ということですのでちょっとかいつまんで、意見が多いものを拾い上げさせてもらいます。部活動が維持できるかどうかという、すべての種目が地域で一斉に進めるべきだっていうふうに考えていただいている先生もおられます。もちろん学校もその地域の中の1つなので、希望する教員が活動に参加しやすいような、仕組みができるといいなとかいうふうに考えてくれる先生が結構多いかなというふうに思います。

その一方で、やっぱり切り離そうじゃないですけど地域に展開移行していく中で、先ほどありましたその人材確保とか、指導者をどういうふうに確保していくのかっていう中に、いわゆるその、子供たち、選手たちとの関係性の中でトラブルが起これてしまわないかどうかっていうことをすごくやっぱり先生方が心配されていることを書いてくれてある方がいらっしゃいます。それから学校ごとで格差が生まれてしまわないかという心配をされ、それから学校の中での、いわゆる先生方同士の軋轢が出てしまう。それを肌で見ている。自分も気持ちがしんどくなってしまうこともあるという。それから、啓発を行う部分で、その保護者への説明というのがやっぱりもう少しあってもいいのじゃないかというので、ちょっとこの中に書かれていることで、私もうんって思ったのが、12月に大体こう各中学校、12月、1月ぐらいにかけて、小学校6年生の方に入学説明会。保護者、或いはこの中学校の生活はという説明をする中で、保護者から、中学校の活動は、来年度、どうなるのですかというような、保護者からの質問があったということを書かれている先生もいらっしゃいますので、やっぱりそのスケジュール感を、そういうことを、やっぱり丁寧に発信していくことを求められているふうに思います。

あと、いつまでにとか何をするのかっていうあたりも明示していただけると、具体性がさらにこういうことができる、こういうのも、先生方の中には描いておられる先生もいらっしゃるということでした。ちょっとかいつまんでにはなりますけど。

(長積議長)

今お聞きいただいて僕は他の地域でも聞いていたんですけどもやっぱり具体的にこの数値目標が、指導できないからこれは変わって欲しいということにも、地域と連携していくときに今まで学校の先生方がいるところやったところが、地域の方々は関わったとしても学校の数で結局、子供たちと保護者の連結面をしなきゃいけないのじゃないかとか、或いはトラブルを対応するのか、学校間に格差が出たらどうすんのかとか、保護者に変えられるのかっていうようなこととかは、やっぱり少し、子供たちの目線に立ったときに子供たちに活動を、今までやったところからすると、地域の方々が変わったことによって、そういう細々のままで物事を進めている状況での、配慮みたいなことっていうのが実際に、地域の方までやっていただけるかみたいなことがあるのかなあというふうに思います。

実際には子供さんたちを大人が見てらっしゃるといふこともあるので、全くできないってことあるかもしれませんが、地域であがったときに、自分の立ち位置とか、結局トラブルがあったらどうするのだなみたいなことを思われることが地域とかもあったりするといふ。その一方で、今、先生がおっしゃったように、大きな枠組みの中にこちらにできる仕組みができたところで、文化とスポーツに参画できるようなことになればいいなという意見っていうのは、かなり前向きなのかなあというふうに思います。

ですのでやっぱり、僕らは私の学校の部活動を誰か担い手を探すって担い手探しとかするということじゃなくてやっぱ大きな枠みたいなところで、どういう方々が参画をしてきた中で、今やっている活動を保持しつつも、新しい活動を生み出していったりすることによって、連携を図って行って、多くの方々が参画できる。どうか、それが結局その町に行ってよかったなと思えるような形に何かできればいいのかなと思いました。

すいません。意見があるんですけどもう1つやってかなきゃいけない。あんまりもう今日のところではすごく細かい、この後の話っていうのは、細かい部分のところにあるので、ここを言い始めてこれで始めたらどうやという話になったりするので、今の大きな柱のところ次やっぱりいただいた意見のところ、湖南省が目指すべき方向性を踏まえていく。もう一方は、オペレーション上のところで、どんなことをこれから整えていったりするのかがいつまでに何をするかどうかという見通しを今提言段階で、どんなふうに湖南省が考えてらっしゃるかどうかを岩島先生にご説明いただくといいですか。

(事務局)

なかなか具体的な話は難しいかなと思うのですが、今、動きある中でこの推進計画というのを、令和 6 年度こういった形でこれを示せるかなあというところで、学校教育課や文化スポーツ課の方にも見てもらいながら、今、決めてきたところです。

確かに今、大きな枠組みの中での話の中で、ここの細かいところを言ったところで、難しいかなあと思うのですが、ただ現状としましては、KVC をモデルとしまして、来年度 4 月からは市の方で地域剣道のクラブチームを立ち上げ、令和 7 年度中に進めていくというところを考えております。なので並行しながら進めていきたいなと思っております。資料 4 のところ、今、細かいところ今ご説明してもしょうがないかなあと思うのですが、資料 4 の 5 ページ。6 ページ、7 ページのところですか。ちょっとご覧ください。先ほどの資料 3 の中で言えなかったところなのですが、課題として上がってくる今お話あったように、指導者のことと、指導者の方が大きいかなと思います。指導者のこの予算のこと、お金のことです。どこでするんやって施設のこともあるかなあと思うのですが、この 3 つのところ、大きな課題になってくるかとは思っております。

そのあたりの中で、どのようにしていくかは 6 ページ 7 ページの中で、ある一定のところ書かしてもらっていますので、またここ見ていただいて、疑問点あったらまた言っていただけたらなというところです。

いろんな面でってとこで KVC のモデルを継続さしてもらおうところと、その検討もそうですし、新たにまた他のことをどのようにどういうことができるかなとか。谷口さんのお話もありました。どこでもっていうところで、部活に加入してない方とか、障害のあるなしにかかわらず、そのまま、みんなが、何か、したいときに参加できるような、そういうところもできないかなあというところも、計画しているところです。

(長積議長)

そうですね最終計画は、もうそれこそ 1700 以上の自治体があるところが全部今作り始めていることになります。大体のプロトタイプでいくつかやっぱ決まっているところはあるのですが、やっぱり、筋道として言っただけでは、どこに向かおうとしているのかに応じて、来年度にする再来年にするので、バックキャストで考えていって、いつまでに何をなすみたいかどうかってバックアップについて、実証事業を進めるということが多くなりますので、今僕がミックスできるというふうにするならば少なからず、今年やった実証事業と違う形とか、種目変えましたっていうので、同じスタイルだけでは駄目だと思いますので、新しい形みたいなものにどんなもの可能性が

あるのかなっていう、違うスタイルみたいなものが実証事業できるように、やってもらいたいのかなと。

今までなかったことをするとか、僕は京都市の事例であれなんすけども。どっかから指導者を持ってきて部活動をとにかくその人にやってもらったらどうなったかって、それどうなったものにも別に変わりが見つかったって話なので、それあんまり意味がないのかなと思います。だから、活動の形が変わるとか新しい活動が生み出されるとか、方式が変わるとか、人数が変わるのだ、場所が変わるのだ、何かその違う新しい形で今後こんなふうなことが本当にできるかどうかを、ぜひ、令和7年度も実証事業では検討していただきたいとは僕のリクエスト。多分これ、次っていつ開かれるのですか。

(事務局)

5月。実証事業は始まっています。KVCさんの取り組みとかはもう、継続させてもらいますし、うちとしても新しい、もう、考えているのですけれども。

(長積議長)

そうですね。

もう次はもう5月になるってことですから始められていなくても、始めていたってということがあると思うのですけども、他地域のところで、意見が出ているのは、多くのところって、この会議の都合にある、合わせると結局、気がついたらチームが入れ替わる8月ぐらいのところ、新チームに切り替えるところであったりするとかっていう、パターンで進めることが多いのですけども。もう4月の入ってくる、1年生が入ってきて部活動を決める前の段階のところには何か仕掛けとかですね、そんなことも実証できないかなあというなことも考えています。ですので、事例はちょっと難しいと思うのですけどもその辺りの見通しを持ちながら、子供たちが、部活入って行って決まっていたところで、次新しいことをするってのはなかなか難しいのかなと思うので、そのあとも、少し検討いただきながら実証事業のことも、令和7年はもうちょっと今言っているところでいいと思いますけども、そのところ見せておいていただければいいか。

何か案はありますか。

(山口委員)

今ね、実証事業で、私、年間2回中学生を集めてフェスティバルをしているのですけど、今は中学生だけの大会なのですけど、そこに観客と、キッチンカーと、今の湖南市として、ここだけでは、あれですけどそういうこと

もしていこうと。要は中学生の大会も、もうみんな地域の方が、1日か半日ぐらい休日過ごせるようなイベントとかをしていこうということはちょっとお話をさせていただいて。

(長積議長)

面白いですね、それはだから、今年やっているところの形よりも、新しいそういうことですからもうめっちゃいいと思います。

つまり、同じとこでやるときに必ず進化を求めてもらいたいのかなと思います。去年やったことと同じこと実証しても仕方がないと思いますので、今、山口先生言われたみたいに、今年やってないことを来年や、来年度やってみたとこで、どうなったのかっていうことがぜひやれるとこに関しては、ぜひ、工夫していただければいいのかなと。

(谷口委員)

あと、この、湖南省が活動地域展開推進計画。これ、の8ページのカッコ資料4-5-1の地域グループとしての要件っていう内容ちょっと読ませていただいているのですけれども。野球とかあれね、ベンチャーズですけど、地域グループっていうのは前からありまして、逆にクラブ活動は、とりあえず何か水泳とか何か入っていて、そこで野球ベンチャーズとか、そういうのやるっていうのは、別に今に始まったことじゃないので、ただ求めておられるのが、地域クラブを作っていく活動をメインにしていこうと、これからやっておられるのか、先ほどからいろいろありましたけど多様性のある、私なんかその通りその方の活動なのですが、そういう方向性をやっていこうと思っておられるのか、もう、これを見ていると、ほぼ地域クラブ、ていうのですかね。もうこれは部活動、学校のクラブハウスじゃないので、地域クラブというのを、もう、前提において、これを絶対作っていきたいっていう方向性で岩島先生は進めようとしておられるのでしょうか。

(事務局)

すいませんありがとうございました。

確かにもう、ここにこういう、どういうクラブチームを作っていくのかというところが、目的のように映ってしまうのですが、様々なパターンがあつてよいというふうには、個人的には今思っておりますし、としても、今後地域内の部活動が地域クラブに移るってことは全然思っていないので、先ほども申し上げたところ、新たな何か、いろんな形が変わればっていうのもそうですし、いろんな選択肢があってもいいのかなというふうには考えています。だから、ここのクラブチーム入ったらもう、そのクラブチームだけでやるとかではなくてっていうところ。

(長積議長)

実際に小田先生おっしゃったように、単独でわかんなくなったりするっていう話をすると、学校でなかなかちょっと遠く離れているけども、近隣にあるところっていうふうなところがあるならば、合同部活動みたいな形っていうのも、それ1つの形でやってもいいのかなと思いますし、別に、この形に全部地域クラブになるっていうのは、学校の部活動としてじゃなくて地域と連携をしていった形で、合同部活動したりするという形の意味合いなのかなあとか、とらえていました。だから、全部新しいものを0から作るっていう事だけじゃなくて既存のものをうまく進化させていったりするとかっていう、先ほどの山口先生ともそうですけども、中高の連携をしていくっていうことっていうのは、既存の中学校でやっている活動と行っている活動をがっちゃんこしていったときに新しくできることっていうこともあったりするということがあると思いますので、それこそ山口さんともそうですし、中村先生が言われたように卓球なんかもそうだと思うんですけども、湖南省にある素地のあるようなものっていうことを全く無視して、全部、新しいものを作るというものではない。既存でやられていることっていうところにいろんな方々がジョイントできるような、そんな風通しの良いようなスキームみたいな、できないかなというのが、僕なんかも今聞いている話です。

(谷口委員)

学校の活動と、地域のスポーツクラブを作るってなってくると、線引きができて、なんかちょっと違うような気がするのです。僕はね、学校の部活動の方がおろそかになっていくのじゃないかなと。逆にね、合同チームで作っていくのは、何も悪いことと否定しているわけじゃないんですけど、中学校で部活しましたけど、やっぱり、同じ中学校の中でしか味わえないのでそういったでもこれを、これはもうチームに行くと、僕はちょっとね、イメージが違うんですけども、競技中心で勝つか負けるか、成績がどうかこうかという方向性、一定のクラブっていうかそういう地域クラブの、そういうの見たことが実際、現実にあるのですよね。特に野球で特に多いのですよね。それ、別にやる整備の活動を批判しているわけでは全然ございませんけど。

だから、一番関わる学校の活動がおろそかになってしまってその地域のこういう、それを作っていくこと自体の、その線引きをちゃんと明確にしとかないと、地域で協力するって言っても、そのところをはっきりしてもらいたいっていうのは、現実にあるのですね。ちょっと私のとらえ方がちょっとね、あれなんかわかんないんですけど、そういうところの心配という

のはちょっと、するところです。

(長積議長)

スポーツ庁文化庁は、学校部活動という名前の中での活動みたいなことをできる限り解消していきたいって思っているのが、流れになるのですね。

ただ、千代田区中学校同士の方々に外部指導者の方が行われながら、形としては学校活動というものがそんなに変わってなくても、それも、地域の方々と連携を図りながら、学校の先生が、全部見なければならぬという形ってというのが、新しい形で地域の方々と協力していく、彦根市内中学の事例を出していただきましたけども。やっぱりこの問題って、学校の問題だけじゃなくて家庭と学校と地域の方々がっていう意味であったりすると、やっぱり地域学校協働本部みたいなコミュニティスクール、先ほどおっしゃいましたけども、そういう方々が協力できるような体制っていうのも考えておくといったいろんな方々を巻き込んでいきたいとそういうことであります。活動の形とか形態を見たらまたぜひこれから議論させていただければいいのかなと思います。

すいませんもう気がつけばもう、もう 2 時間近くなったら、もう次の会議、2 時間覚悟ですいません。ぜひ引き継ぎをしていただくということをお願いできればと思います。

もう 1 個あるのですいませんちょっとご説明いただかなきゃいけないので、資料 5 になりますかね。ご審議お願いします。

(事務局)

すいません。もう資料 5 の方はそんな熟読してもらえないのですけれども、令和 6 年度このような形で進めたかったってところなのです。

ただ、なかなかこう、急な実証事業の申請等もあり、うまく進められなかった部分がありましたので、令和 7 年度は、その辺り計画立てて進めていきたいという部分と、この国の実証事業も、昨年、なんですけど、なかなか本当に、補助金の方が幾らもらえるのかっていうと難しいところもあったのですけど、来年度はこちらの考えている近い部分はいただけるというところで計画通り進められるかなあと考えています。

この協議会なのですけども、来年度は 4 回開催したいと考えております。

先ほど言いましたけど、5 月まで予定なんですけど、5 月 8 月 11 月 2 月ぐらいで、進めていきたいなと思っています。

次回 5 月に関しましても、なかなか今日具体的な話までは行けていないのですけれども、その辺りを湖南市として目指していく地域クラブって一体どういうところなのかとか、クラブだけにこだわることではないと思う

のですけどそのあたりのことであったりとか、やはり、谷口さんも話があったように、先生の生の声であったりとか、こちらとしても、保護者の生の声であったりとか、そのあたりも、もっと具体的に踏み込んだところで、知りたいなと思っているところありますので、アンケートの方ももう一度実施したいなと思っています。

この案を次回提案させてもらったらなと思っていますので、すみません、資料5については以上になります。

(長積議長)

ありがとうございます。

今ありましたように多分、多くの方々、学校の先生がどう思っているとか、子供たちがとかいろんな意見があると思いますがその情報とかも入れながらですね、僕たちが、目指す方向性ではどんなふうになればいいのかどうか、これを検討していければと思いますし、やっぱりできれば、今までにない新しいスタイルみたいなものっていうのが生まれるということはいいいのかな。

今、大切に守ったものは、守りつつも、やっぱり、そのチャンスに恵まれなかったり、そのスタイルでなかなか馴染めなかったりする子供たちっていうのが、或いは大人の方々が参画できる新しいスタイルってのはぜひ、湖南市ならではのものを作ることができるかなと思っています。

今日もちょっとしゃべり過ぎたんすけども、次回は、皆さんにも何度もしゃべってもらい、必ず来るようにしますので、2回3回しゃべってもらえるようにするためにですね。次回また工夫させていただきたいなと思います。

次回のところは、湖南市が考える、今のこの部活動の改革における地域クラブ、この部活動の地域展開ってことを考えた、地域と連携、地域の一体となった、文化スポーツの仕組みの形みたいな、そこを少し、提案できるし、したいなど。

すみません。時間が来たら申し訳ないですけど、一旦そういうふうにお返しいたします。

(事務局)

すみません。協議のほどありがとうございました。なかなかこちらが方向性の辺りで示してないところがありまして、あれなのですけど、今日いただいたところ、もう一度持ち帰って、もう一度整理して、次回、提案できたらと思っていますので、ありがとうございました。

では最後に湖南市教育委員会、教育部長挨拶。

(永坂部長)

どうもありがとうございます。

教育部長の永坂でございます。

本日は第1回目の湖南省立中学校の部活動地域展開推進協議会、にご参加いただきましてまたご意見いろいろいただきまして、大変ありがとうございます。

長積先生につきましても、熱心にフォローまとめていただきまして進行していただきまして、大変ありがとうございます。本日いただきました意見ですね、非常に大変貴重な意見でございます。また活発な意見交換をしていただきまして、心より感謝申し上げたいと思います。

冒頭ありましたように、本日は第1回目という事でございます。今立ち上がったばかりです。地域、学校とももちろんこれに行政が入って、一緒にやっていくということを改めて気づかされたといいますか認識したところでございます。この取り組みに関しましては中学校の生徒をたちの成長を支えるための一環の1つだというふうに思います。それぞれの立場、地域、学校、行政、それぞれの立場がありますし、それぞれの考え方もありまして、湖南省らしく、他の市町がやっているからこうしようから、ということではなくですね、湖南省独自のスタイルといいますか、そういったものが見いだせたらなというふうに思っているところでございます。

また今後、今回出ましたお話をまとめて上げていくということで、資料4にありますこの地域展開推進計画、あくまでも今まだ、今日始まったばかりで中身につきましては、これから1回ごとでいいかなと思っております。

また皆様の貴重なご意見、ちょうだいしたいなというふうに思っております。引き続き皆様と力を合わせながら、子供たちのために寄り添って、協力しながら進めていきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりますけれどもまだまだ寒い日が続いております。お体には十分ご注意ください、お気をつけていただきたいというふうに思います。また皆様、今後とも、引き続きこの地域展開推進協議会を、活発に進めまして、推進計画を立ち上げていきたいなというふうに思います。また今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

ありがとうございました。

(事務局)

これもちまして湖南省立中学校活動地域展開推進協議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。